

六年月組

三十二回生 山田 明

私は長嶋茂雄がデビューした年、昭和三十三年十月に父親の転勤で名古屋から千里山、当時出来立てほやほやの公団住宅星が丘三号棟に引っ越してきて、団地族の仲間入りをしました。

千里第二小学校四年松組、なんだ、こりやー宝塚歌劇団ではあるまいし、人に言うのが恥ずかしかつた思い出があります。また、生徒数が団塊の世代のせいで急に増え過ぎて、今では考えられませんが、本校と分校に別れなければいけない状況でした。

その頃の本校の正門は敷地の北側にあり、星が丘三号棟からは眼下に望むところに位置して、その中間に野球の試合ができるほどの広場がありました。学校まで歩いて五分くらいの距離にも関わらず、いつも登校する時は滑り込みで、しかもその正門から入るのではなく、校舎と文房具店（名前は忘れしました）の間の通

用口から飛び込んだような記憶があります。四年松組から五年月組に上がり、教室はかの有名な木造校舎の二階の一番西側で、レトロな階段のすぐ横

の部屋でした。たしか、一階には宿直室と保健室があったような気がします。六年月組になると高台に新しく出来た鉄筋コンクリート三階建ての校舎に移りました。

真新しい校舎には喜んだものの、校庭はまるで西部劇のように大砂塵が舞う造成中の空き地で、当時担任だった新任早々の小西敏照先生を囲んで、暗くなるまでドッジボールや野球をし、イレギュラーバウンドに悩まされながらも、楽しい学校生活でした。その数年後、私の半生は東京で過ごすことになりました。

年月は過ぎ、平成九年、その小西先生は千里第二小学校の校長先生になられておられ、まもなく退任される時が来たとのことで、大阪在住の人たちの声かけで同窓会を千里第二小学校でやろうということになりました。当時クラスは五六人だったと思いますが、大阪はもちろん東京からも合せて四〇人くらいが参加しました。

小西校長のご案内で、解体される前の使われていない木造校舎を見学し、その後六年月組の教室で四十年の歳月を感じさせないくらいの盛り上がりなのなか、同

窓会が進行しました。特に、当時のガキ大将が感激のあまり先生の前で号泣したのが今でも目の前に浮かんできます。

さすがに教室ではお酒が飲めないのです、二次会まで我慢をし、散会し終わったのは日付が変わる頃でした。

さて、昨年久しぶりに同級生と千里山を散策しました。

住んでいた星が丘三号棟に行くのと駐車場になっていました。昔の建物はほんの少し残っていました。ほとんどは建て替えて最新のマンションに変わっており、公団住宅の記憶は頭の中と写真だけになってしまいました。その足で小学校に廻ったのですが、木造校舎はすっかりリニューアルされ、当時の木の香りや汚れは感じることはありませんでした。正門も別のところに移動し、何よりも小西先生は八年前にお亡くなりになっていました。

五〇年以上も歳月が流れ、形あるものはなくなりつつありますが、うれしいのは当時の同級生と会うとき、いきなり昭和三〇年代に戻ることができることです。

我々団塊の世代はゆりかごから墓場まで競争の世

代、いつの世も人数が多いというだけで話題になる世代、何十年か何百年か先、こういう年代があったと歴史に残ると思うと、なにか自慢できるような気もしません。

「編集部 追記」

お二人からお寄せいただいた文章を読み、団塊の世代の前後の方々からも団塊の世代の方々についてのご意見を伺えばよかったな と後になって思いました。

いつも後ろから津波のように押し寄せる団塊の世代に脅かされていた二十九・三十回生や団塊の世代を「目の上のたんこぶ」と感じてこられた三十四・三十五回生の皆様には是非 次回の会誌に「団塊の世代にも申す」とご意見をたくさんいただけたらなうと思えます。よろしくお願いたします。